



証券コード: 7707

PSS 第27期(2012年6月期) 第2四半期 決算説明会

2012年2月29日

プレシジョン・システム・サイエンス株式会社

www.pss.co.jp

Contents

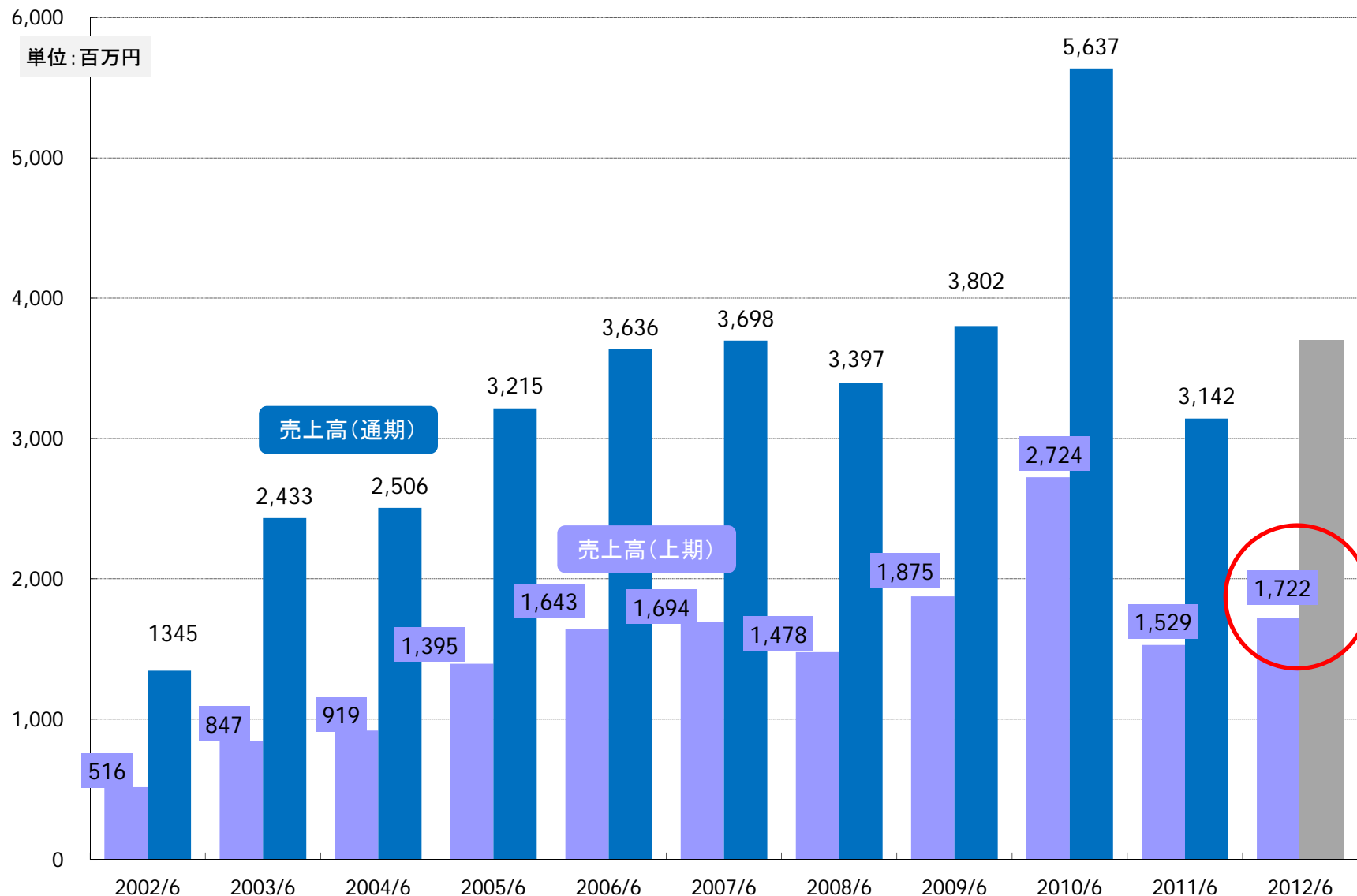
I. 当期(第27期)第2四半期業績概況

II. 第27期下期以降のPSS事業展開

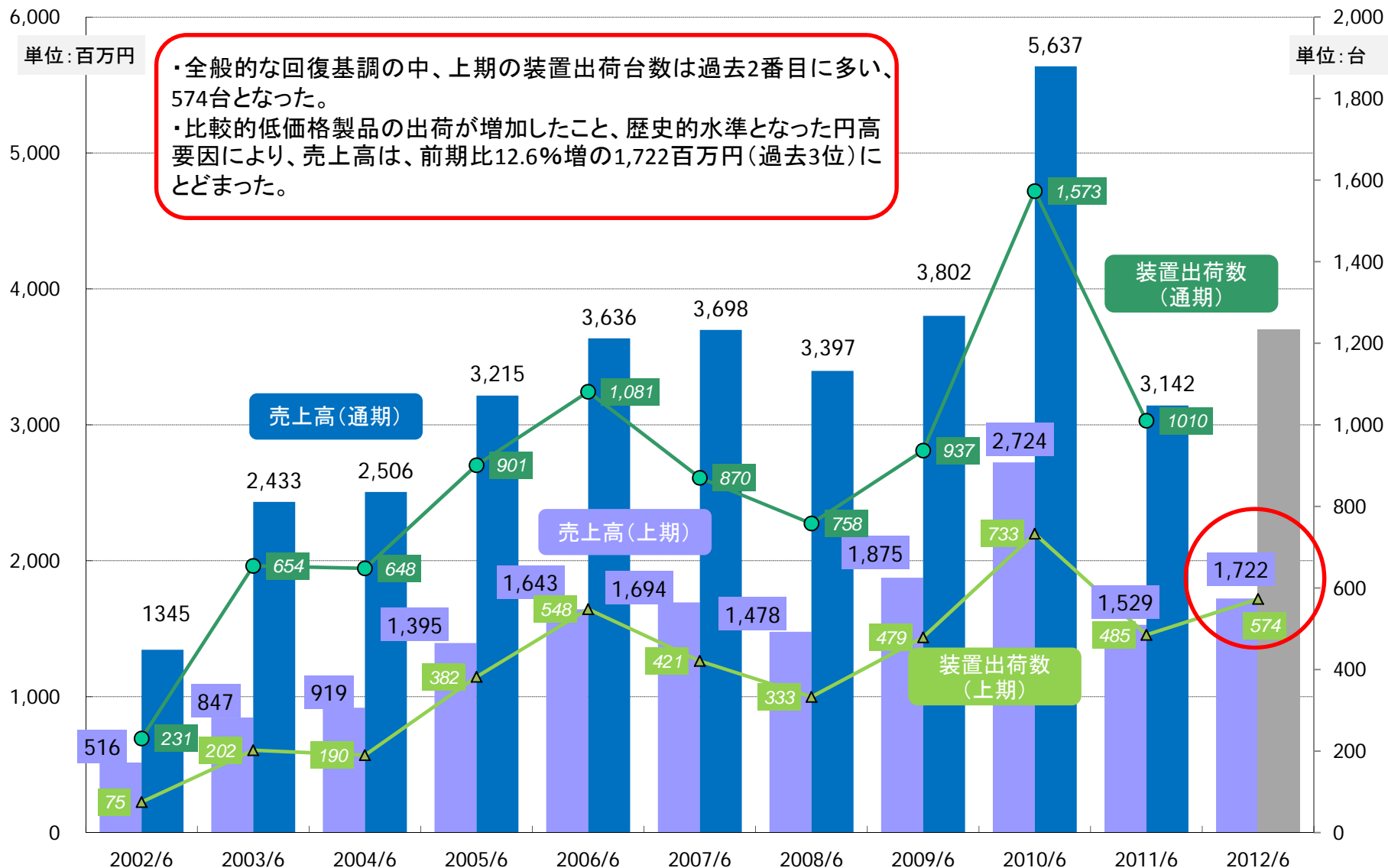
第27期 第2四半期決算概況

- **(回復基調)** 装置出荷台数は、半期ベースで過去2位の574台。OEM先の過剰在庫問題が解消しつつあり、キアゲン向け販売が前期比24.6%増と回復。一方、ロッシュは調整が長引いている。
- **(為替)** 円高がさらに進行し最高水準に。6カ月間の平均レートは、ユーロ107.23円、ドル77.63円。ただし、売上総利益率は、37.7%と比較的高水準を確保。
- **(見通しの修正)** 一部OEM先販売の回復の遅れ、円高等の要因により業績予想の下方修正。
- **(新事業分野での展開)**
 - ①全自動解析装置 (geneLEAD) の進捗、②開発・製造事業進捗、③小型分析装置SpeLIA、その他

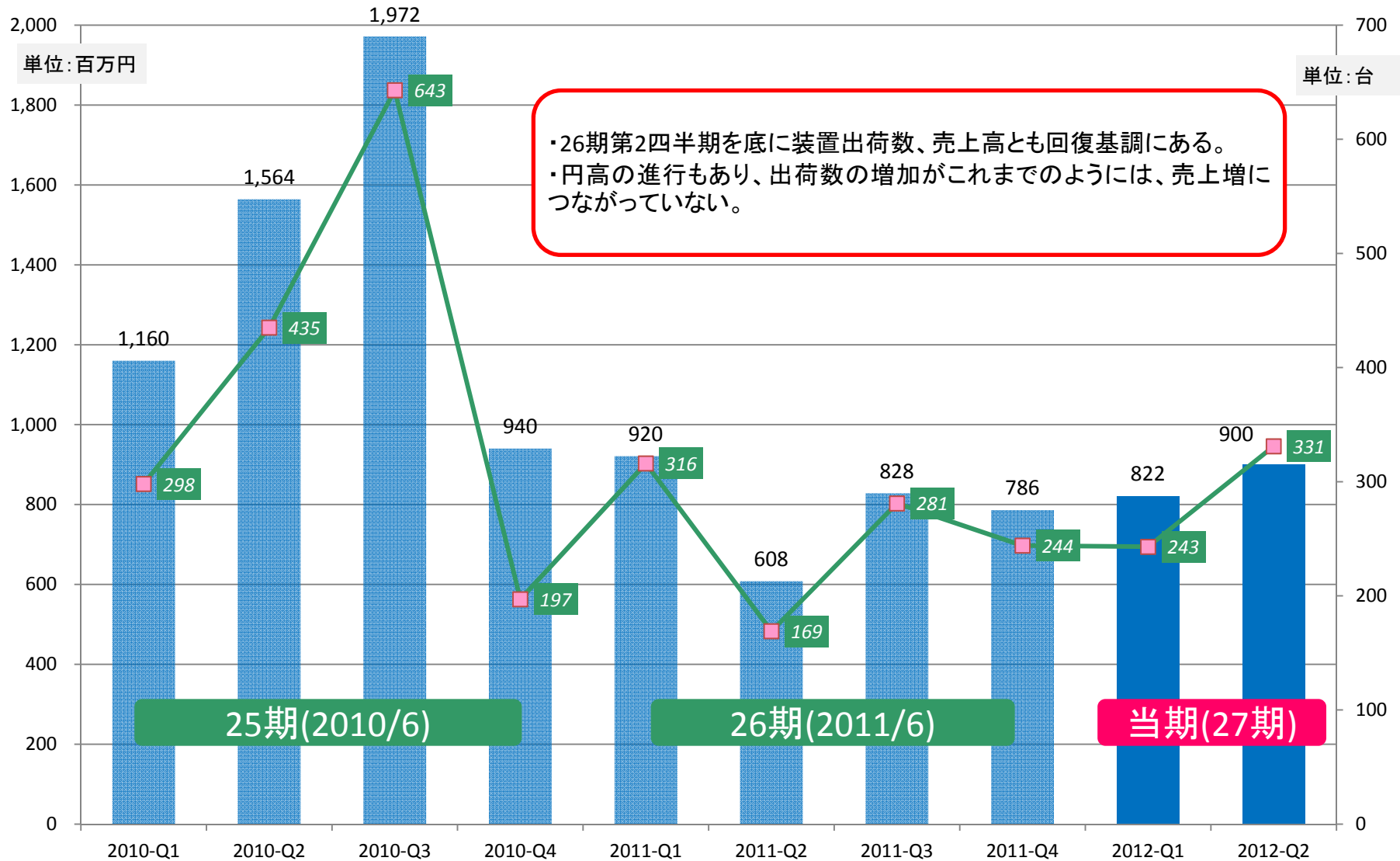
売上高/装置出荷数(上期・通期)



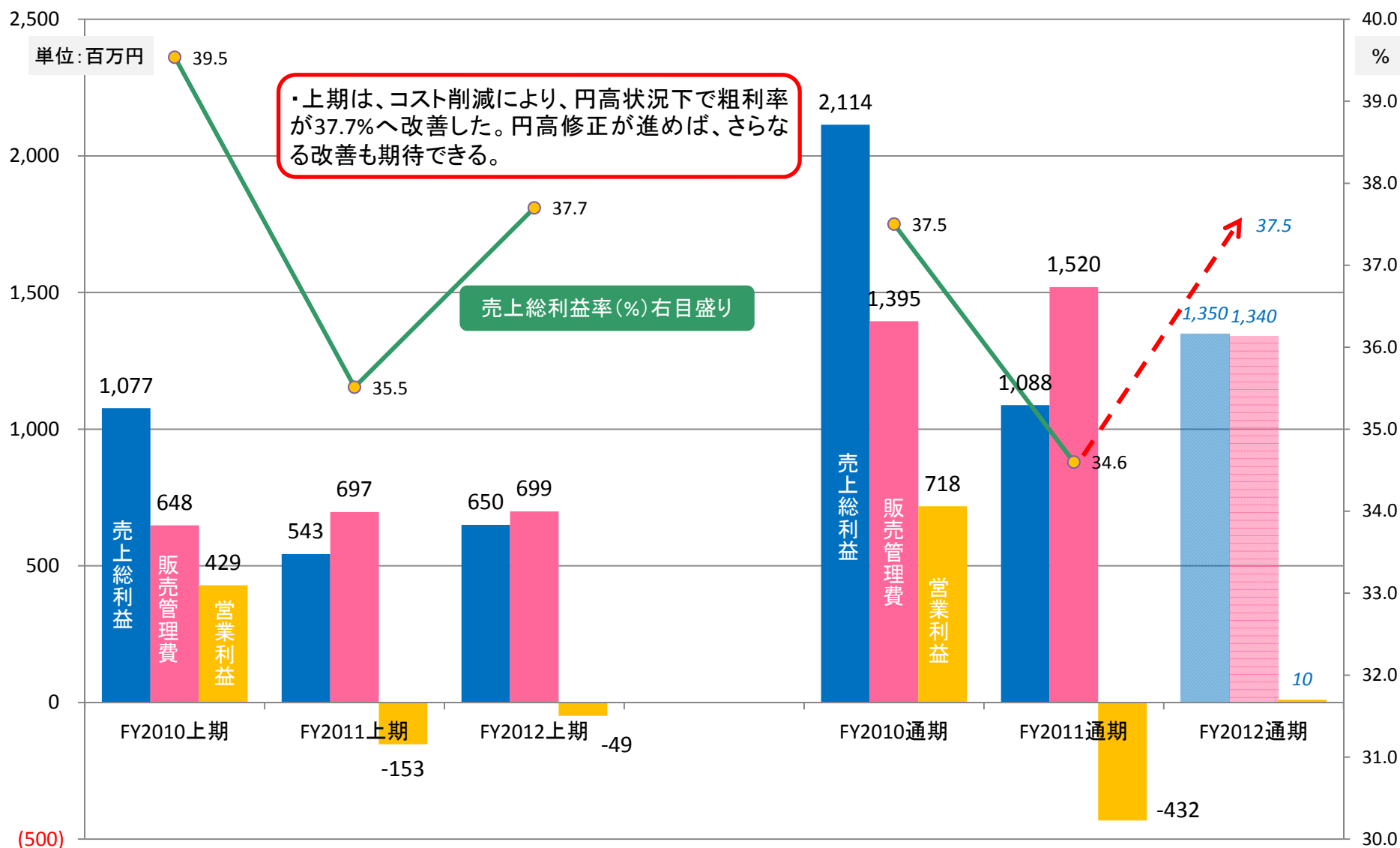
売上高/装置出荷数(上期・通期)



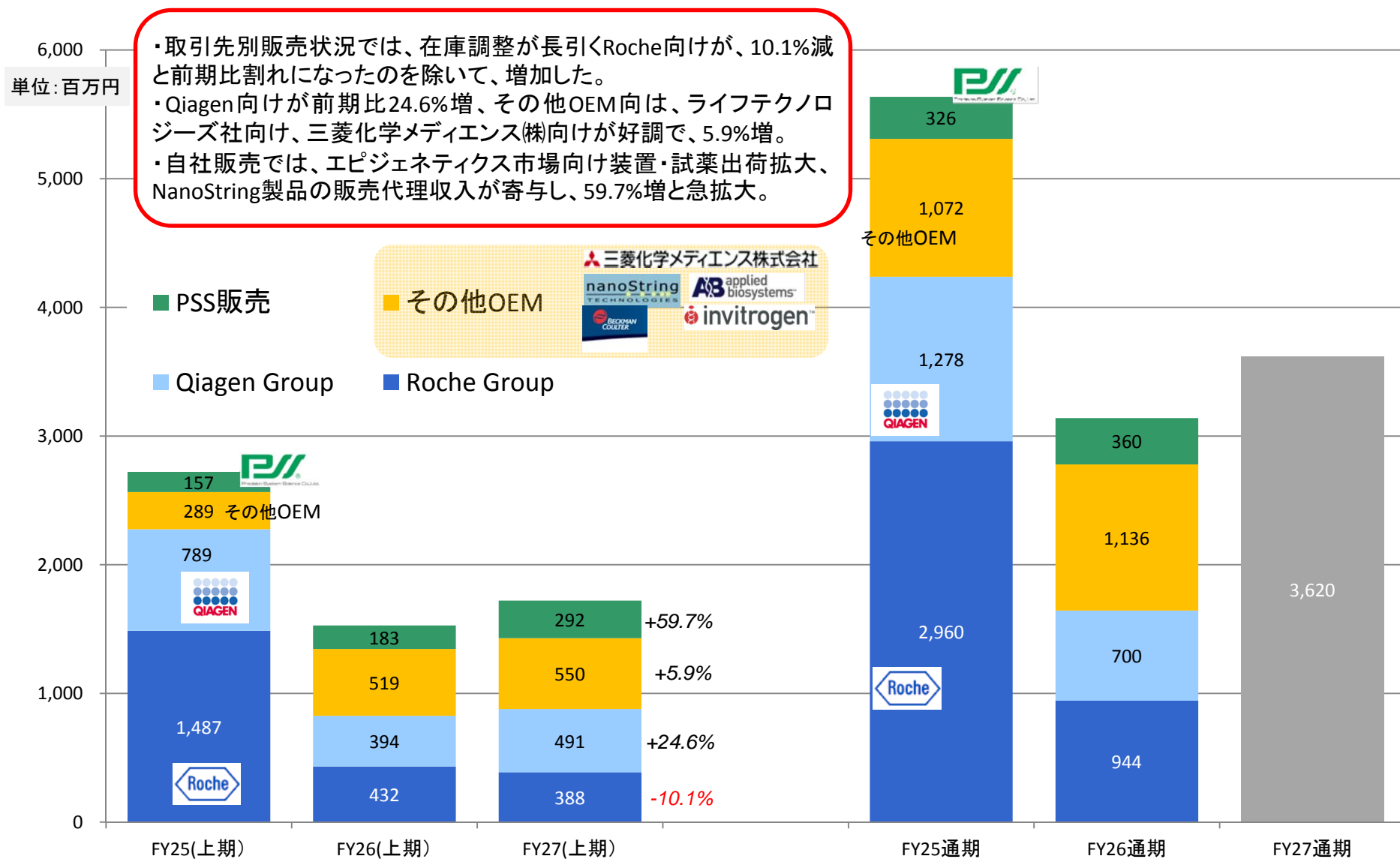
四半期業績推移(売上高/装置出荷数)



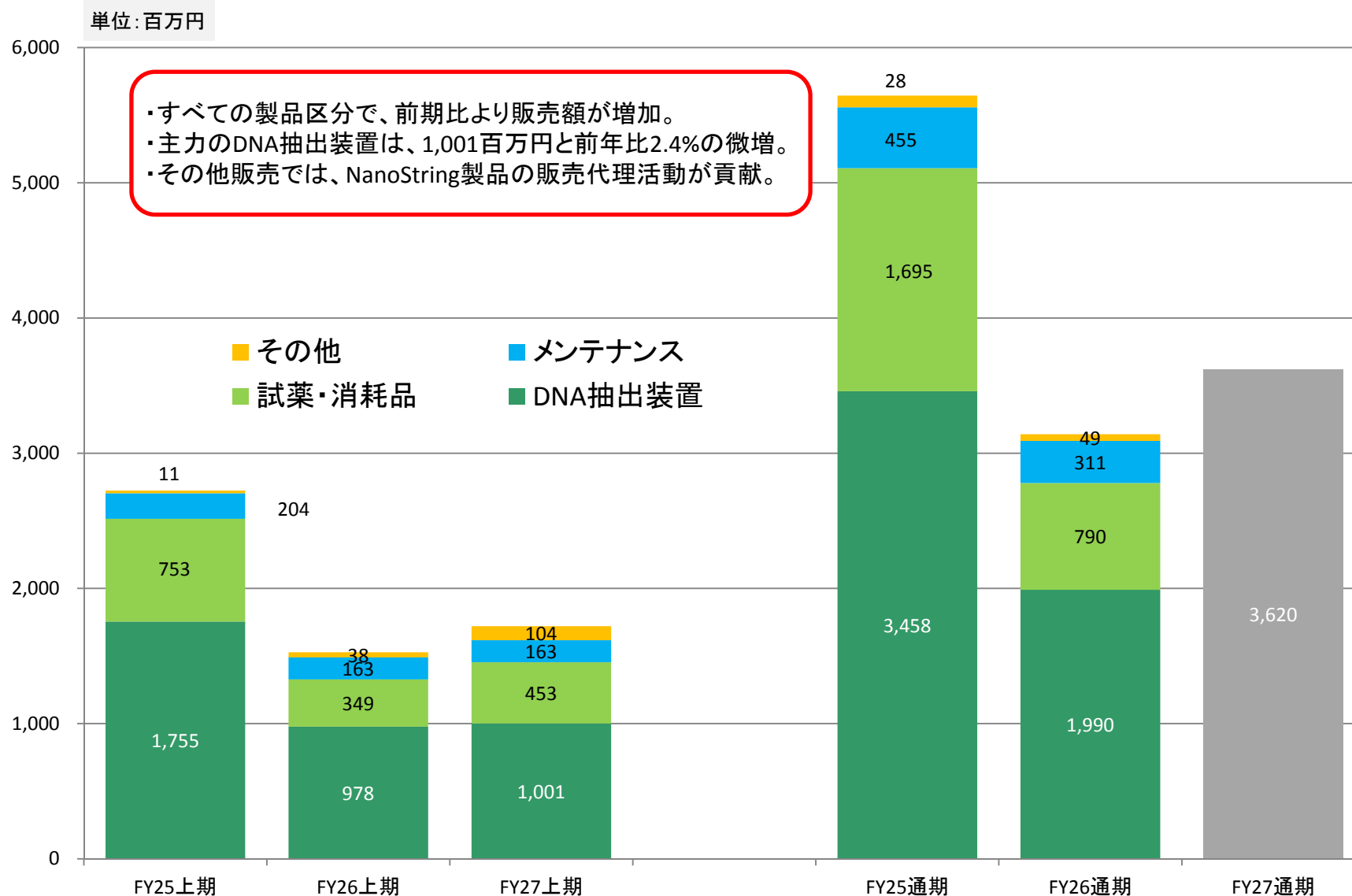
売上総利益・販売管理費・営業利益



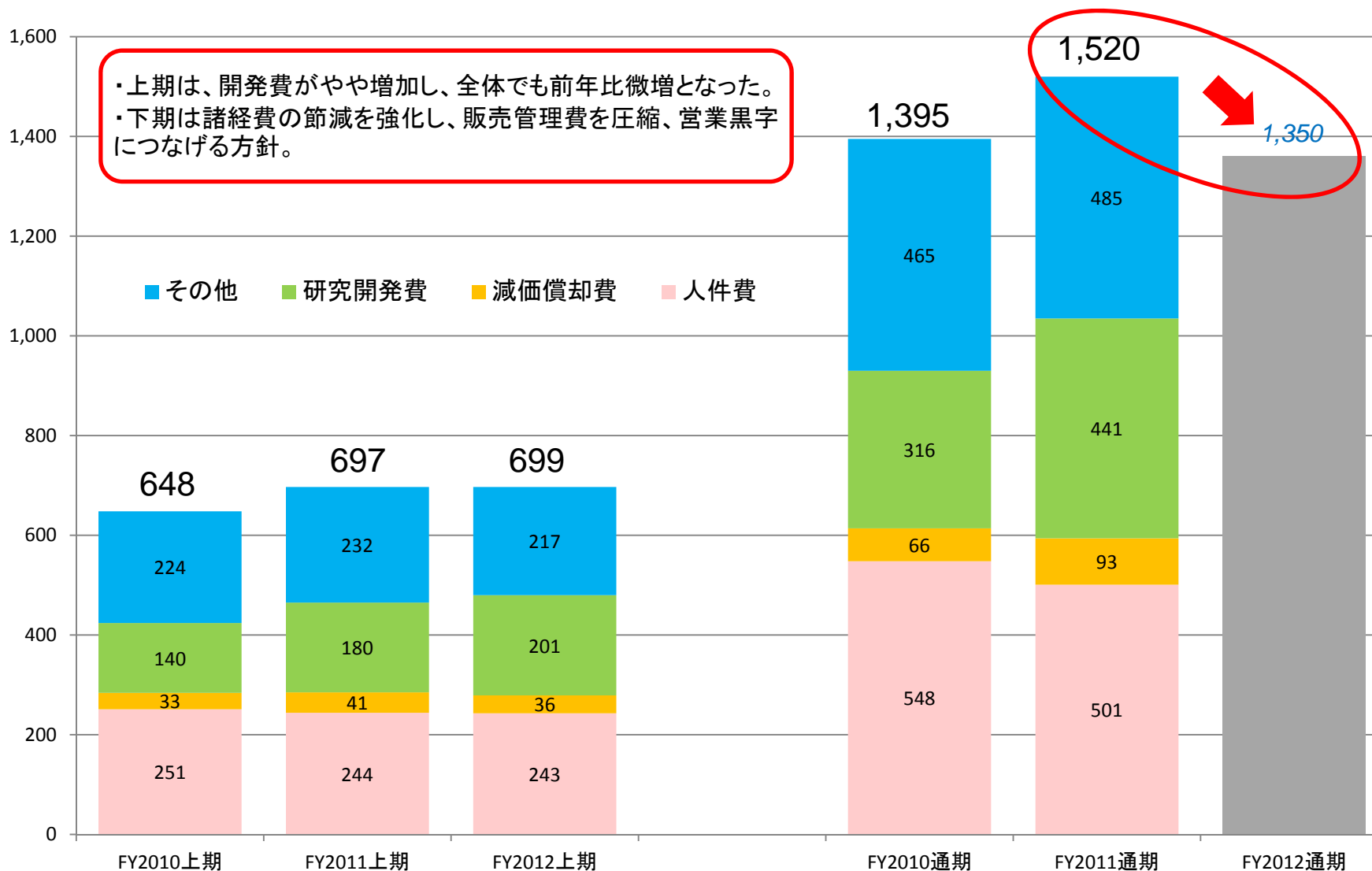
取引先別販売状況(上期・通期)



製品別販売状況(上期/通期)



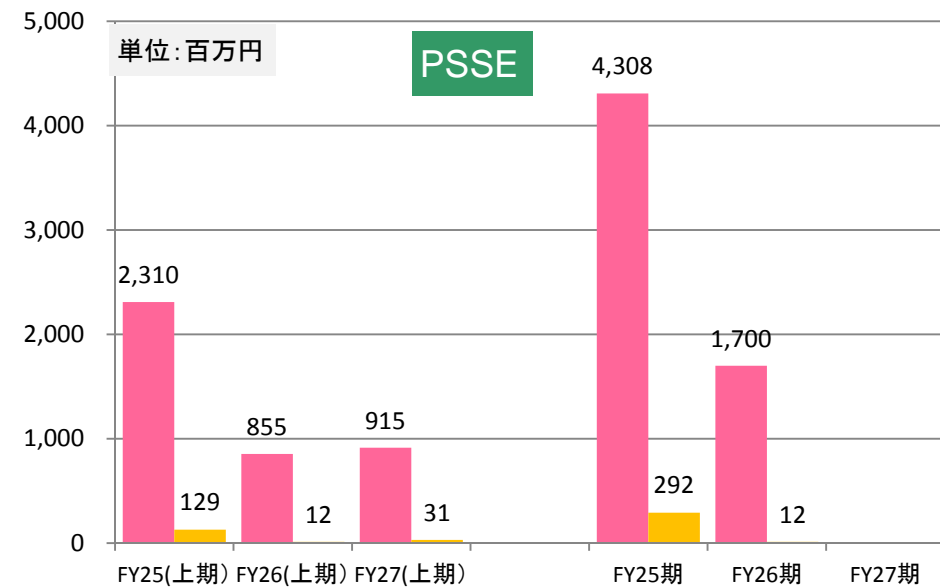
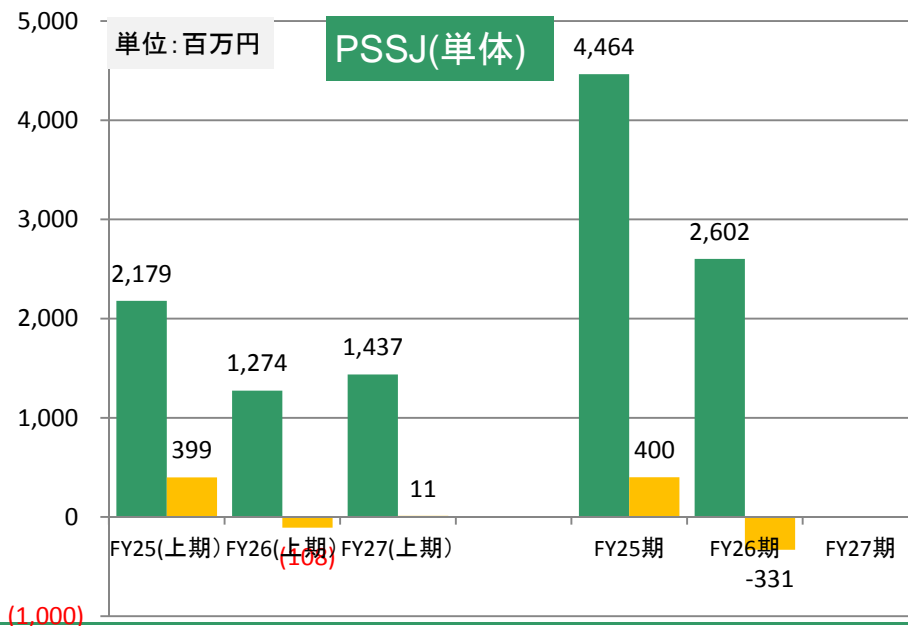
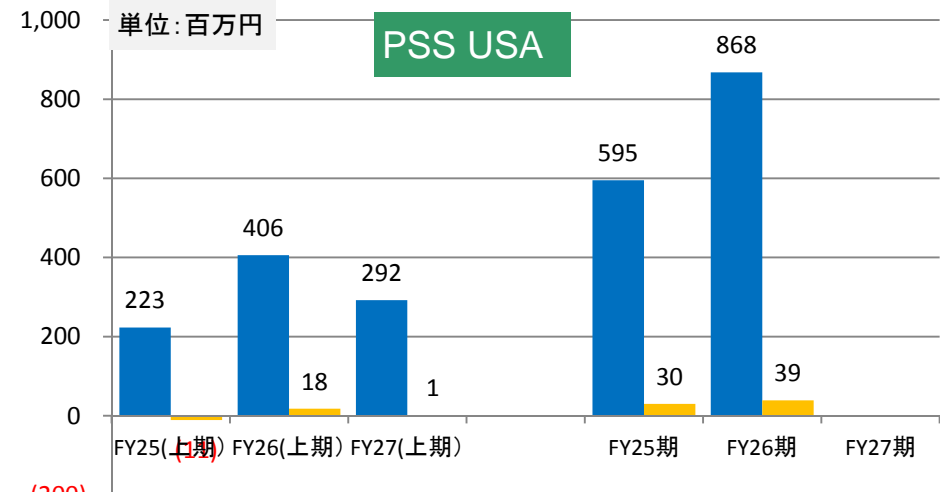
販売管理費内訳



PSS 主要3社実績(売上高/営業利益)

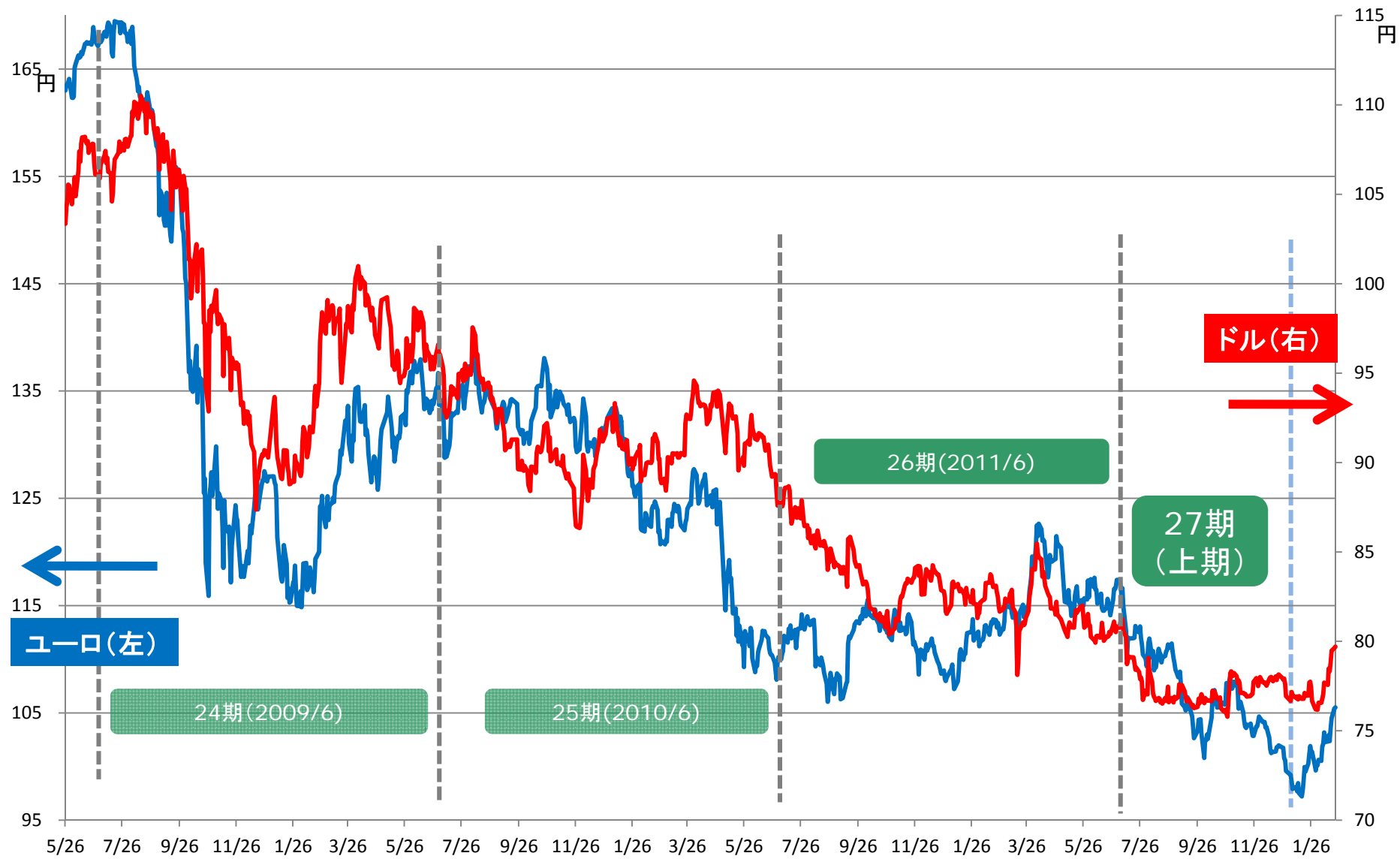
・PSSJ、PSSE業績に回復の兆しが見られる。前期業績が急拡大したPSSUSAは、やや低調。3社ともわずかに、営業利益を確保。PSSJでは、NanoString製品販売も寄与。

・上期、PSSUSAは、一部OEM先販売が不振で、売上、営業利益とも前期比割れとなったが、下期には新規開発案件の獲得が期待されている。

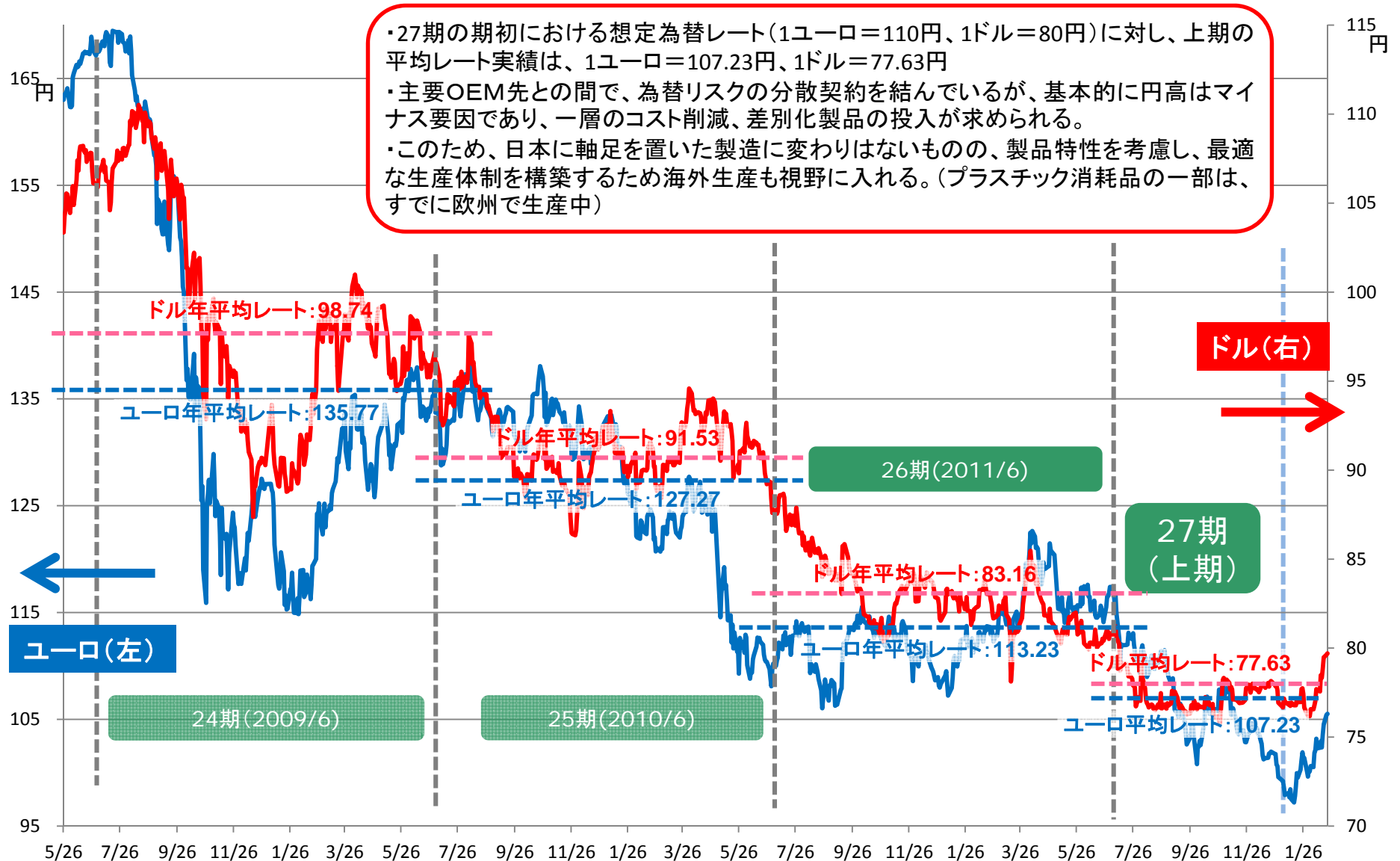


(1,000)

ユーロ/円、ドル/円為替推移



ユーロ/円、ドル/円為替推移



第2四半期業績と通期業績見通し

第2四半期業績（2011年7月1日～2011年12月31日）

単位:100万円	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株あたり純利益
2012年6月期第2四半期(A)	1,722	-49	-79	-95	-1,044.45円
2011年6月期第2四半期(B)	1,529	-153	-162	-158	-1,738.79円
増減率(B)/(A)	+12.6%	----	----	----	----
期初業績予想(2011年8月12日)	1,960	20	15	5	54.79円

通期業績（2011年7月1日～2012年6月30日）予想

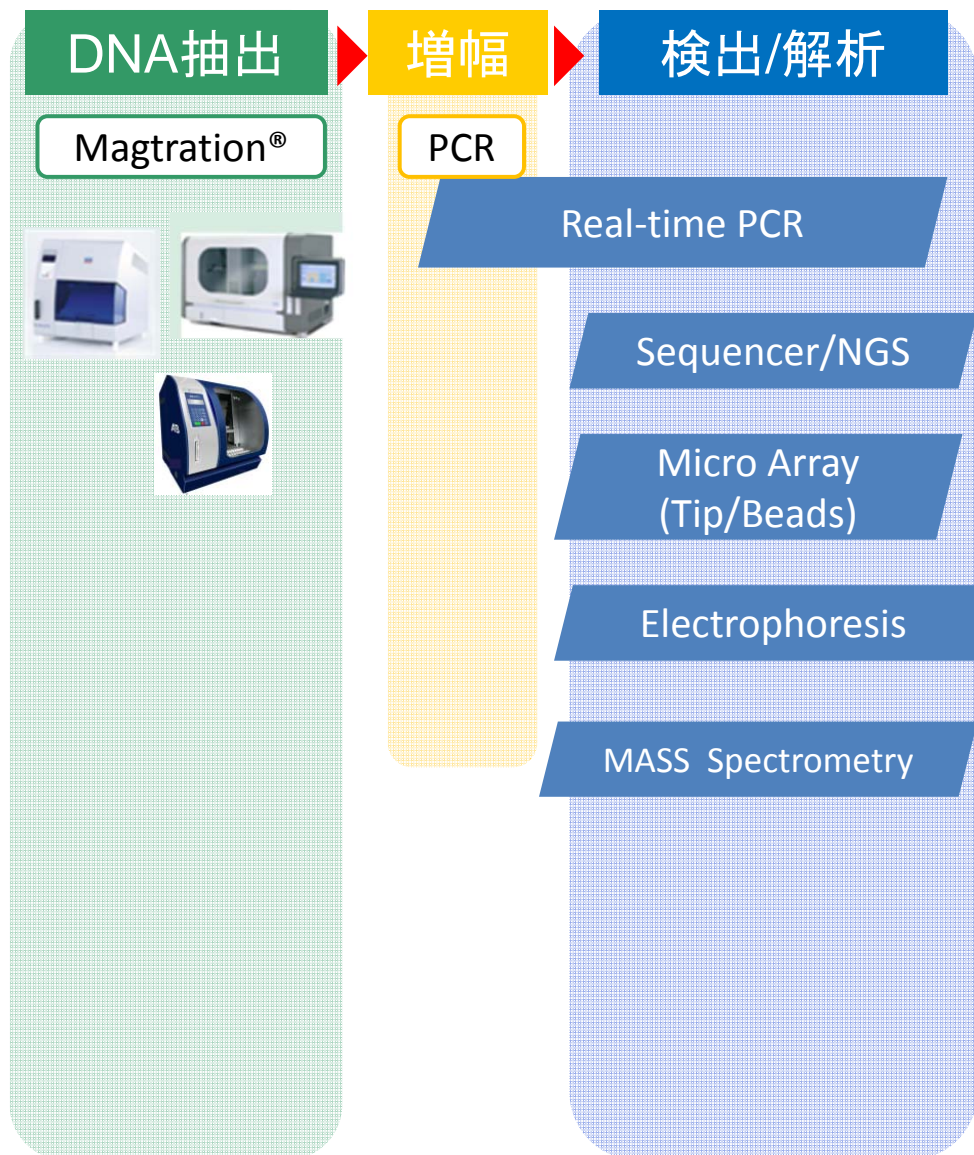
単位:100万円	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株あたり純利益
2012年2月7日予想修正(A)	3,620	10	-30	-60	-657.58円
前期(2011年6月期)(B)	3,142	-432	-424	-366	-4,017.95円
増減率(B)/(A)	+15.2%	----	----	----	----
期初業績予想(2011年8月12日)	4,000	40	30	10	109.58円

■ 下期の為替レートは、1ユーロ=100円、1ドル=77円で算定

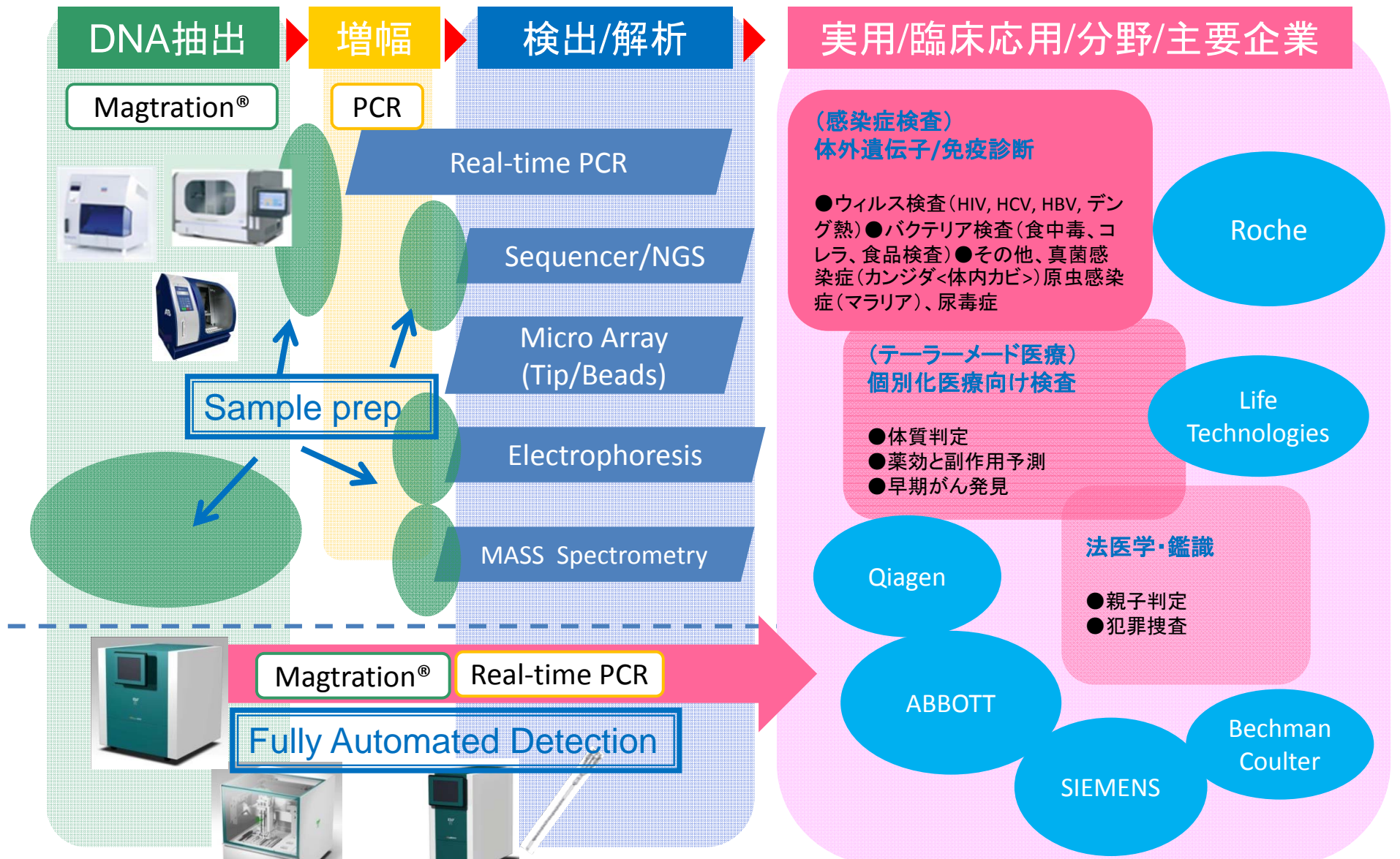
I. 当期(第27期)第2四半期業績概況

II. 第27期下期以降のPSS事業展開

分子診断技術とPSS事業分野イメージ



分子診断技術とPSS事業分野イメージ



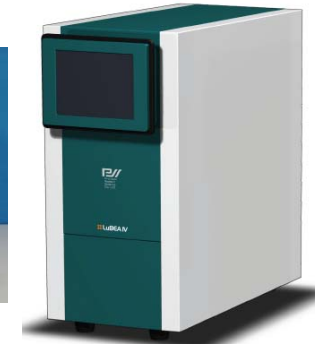
臨床応用に向けた全自動解析装置3機種

テーマII

テーマIII

テーマII

テーマIII



geneLEAD[®]

抽出 増幅 検出/測定

Magtration[®] + リアルタイムPCR

感染症検査

- インフルエンザウイルス
- 肝炎ウイルス検査
- 血液スクリーニング
- HPV

テーラーメイド医療

- 肥満
- 薬剤副作用
- 投与量予測
- mRNAプロファイル

geneTYPIST[™]

抽出 増幅 検出/測定

Magtration[®] + PCR + BIST[®]

食品検査

- 種特定: マグロ・トリ等
- コメの種特定
- 組換え遺伝子検査

テーラーメイド医療

- 肥満
- 薬剤副作用
- 投与量予測
- mRNAプロファイル

感染症検査

- インフルエンザウイルス
- 肝炎ウイルス検査
- 血液スクリーニング
- HPV

LuBEA[®]

反応 検出/測定

BIST[®]技術: 1mmφビーズ、多項目同時解析

臨床検査

- がん発現タンパク・プロファイル
- ホルモン

食品安全検査

- 表示食物アレルギー
- 食中毒
- 食材判定

小動物検査

- がん
- 甲状腺ホルモン
- 腎機能

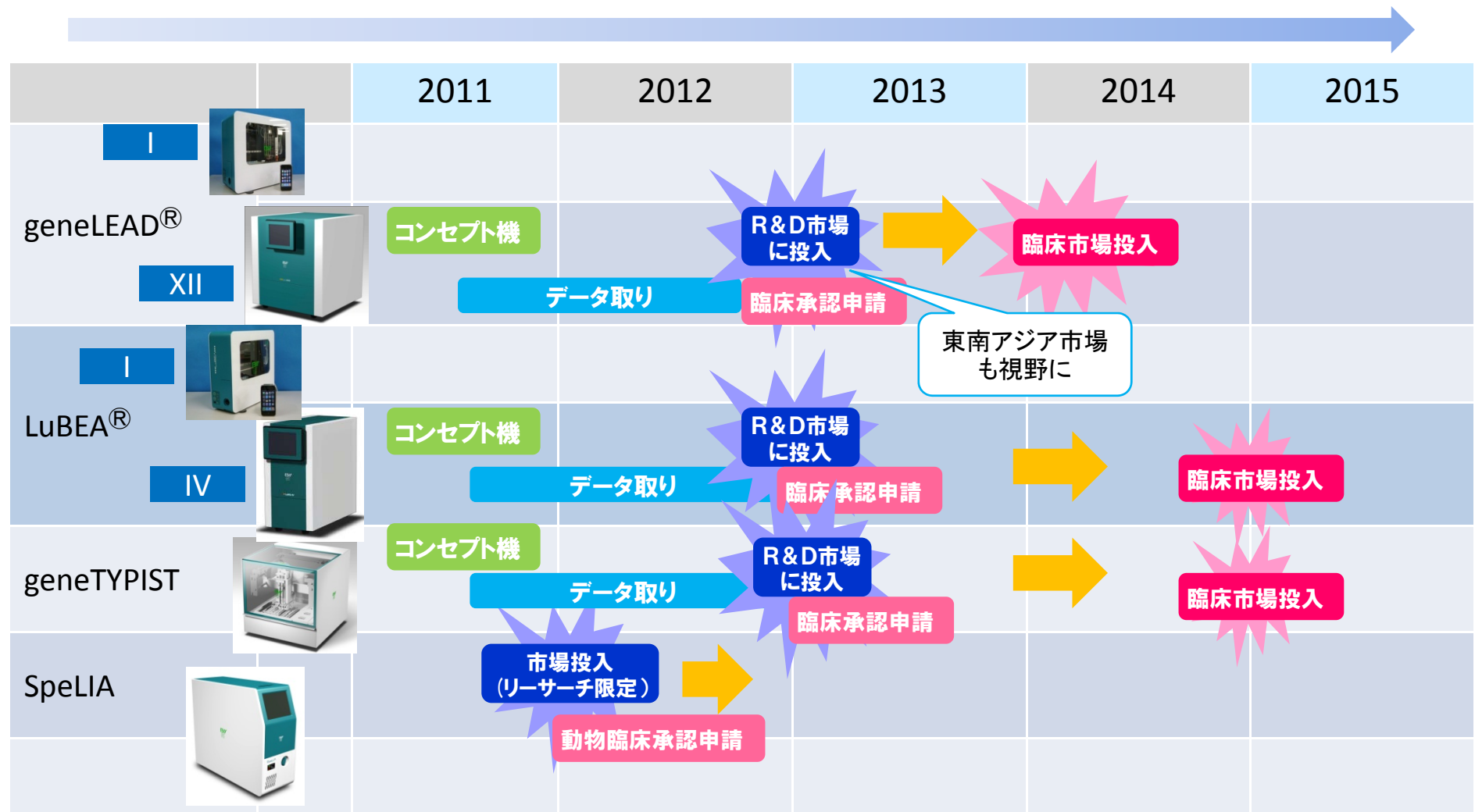
小型分析装置 SpeLIA



1. 多項目または多検体同時処理
2. 1連ノズルで、4検体または4項目まで
3. プレパック試薬
4. 分光光度計搭載
5. 測定波長 (340-750 nm)
6. 処理時間: 約10分(1テスト当たり)
7. 大きさ: W17cm x D 42 cm x H 38 cm

免疫、生化学検査に対応
・免疫検査(ラテックス凝集法)
・生化学検査

全自動解析装置の市場展開工程



- イタリアDiaSorinグループのBiotorin社向けNAT検査用診断装置開発は、計画通りに進捗。同装置は栄研化学(株)が開発したLAMP法を搭載し、感染症などの臨床診断向けに開発。Biotorin社は、2012年後半での市場投入を予定。
- 香港Hai Kang Life社向け遺伝子診断装置開発もほぼ完了。同装置はHai Kang Life社の検出技術を搭載した、感染症市場向けの小型遺伝子診断装置。

27期下期以降の事業展開

□ 効率的で精度の高い検出・診断を実現するため、それぞれの検出・診断技術向けsample prepの重要性が、一層高まっている。

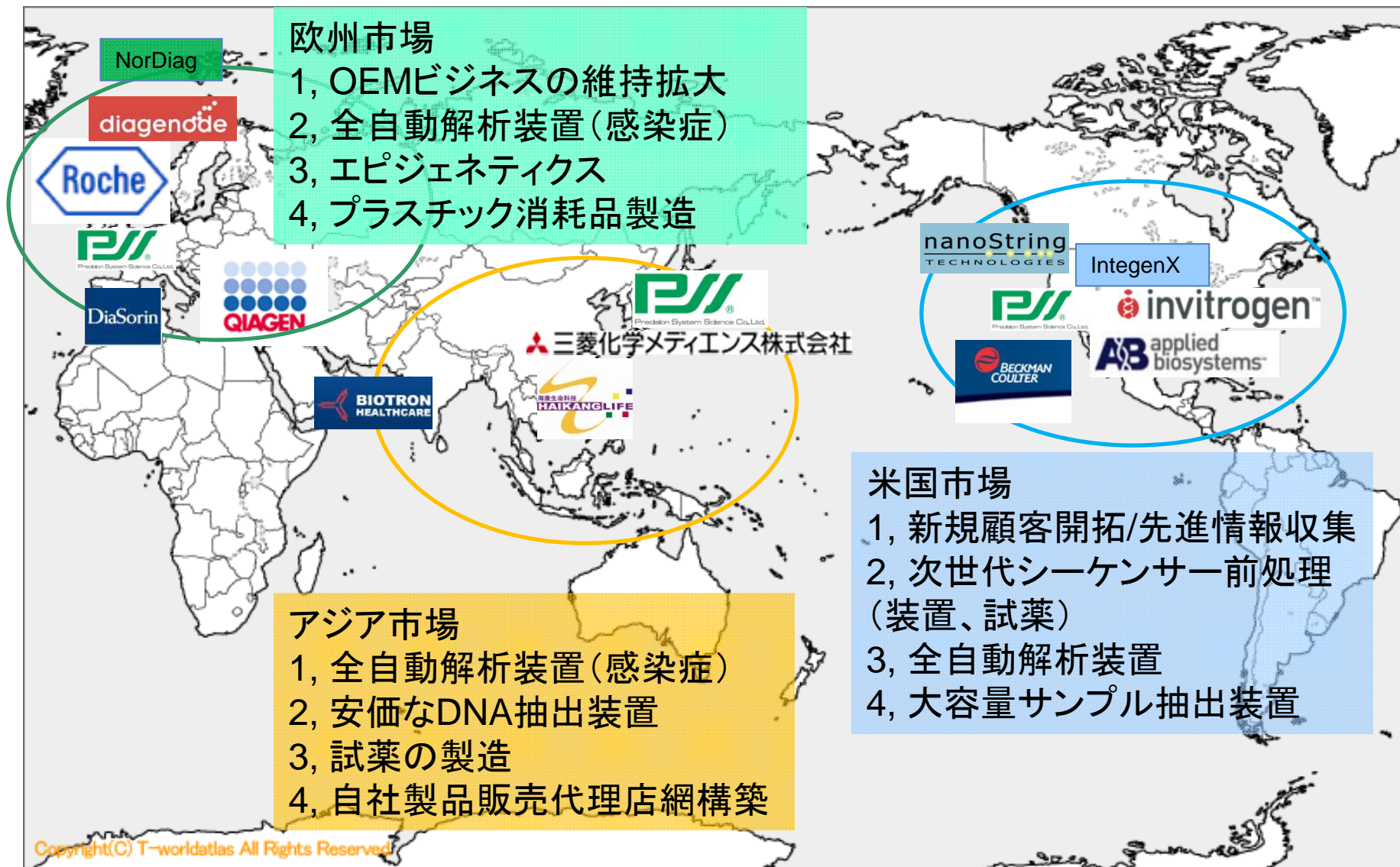
➡ ・PSSには、実績のあるMagtrationと自動化技術があり、市場ニーズを的確に把握し、対応することで、存在感をさらに高めることができる。

□ 診断領域で確かな自動化への潮流

➡ ・geneLEAD等の全自動解析装置を早期に
(2012年末)R&D市場へ投入

・試薬の本格開発・製造に向けた体制を構築

PSSの今後の事業展開



本資料には、当社の計画と見通しを反映した将来予測に関する記述を含んでおります。これらは、本資料作成時において、入手可能な情報に基づいた予想値であり、潜在的なリスクや不確実性が存在しています。

そのため、本資料に記載されている将来見通しが、実際の業績と大きく異なる場合があることを、ご承知おきいただきますよう、お願い申し上げます。

2012年2月29日
プレシジョン・システム・サイエンス株式会社
<http://www.pss.co.jp/>